

全国大学書道学会

会報

36

令和8年(2026)
6月1日発行
全国大学書道学会

学界の発展のために

理事長 永由徳夫

理事長三期目を迎えました永由徳夫と申します。新体制となりました今期(二〇二六年四月〜二〇二八年三月)も、会員の皆様からのご支援・ご協力を仰ぎながら、本学会を円滑に運営してまいりたく、何卒よろしくお願い申し上げます。

本学会は長らく「研究発表」「記念講演」「会員書作展」を三鼎として活動してまいりましたが、近年の活動状況に鑑み、ここに「研修」を加え、運営の四天柱したいと思います。二〇一八年、創立六十周年企画として当時の横田恭三理事長が「台北研修旅行」を牽引されたことが契機となり、その後、国内外の研修旅行・拓本鑑賞会・講演会等、種々企画し、皆様に有意義な機会を提供するとともに、本学会の活動の要として定着してきました。これらひとえに皆様方のご助勢の賜物であり、心より深く感謝申し上げます。

先期におきまして、国立台湾藝術大学で開催された「国際学術交流」は本学会三回目の海外研修となり、また、本学会初となる宿泊を伴う国内研修となった會津八一・諸橋轍次・良寛らの実績をめぐる「新潟研修」は、参加会員から好評を博しました。今期におきまして、拓本鑑賞会や研修旅行を企画立案したいと考えておりますので、どうぞご期待ください。皆様には、奮ってのご参加をお願いいたします。

今期は、先期に策定した「長期会員優遇措置」「若手会員のための研究発表旅費補助規程」「学会賞」に関し、適切に運用していきたいと考えています。

「長期会員優遇措置」の適用(会費納入の免除)を受けている会員におかれましては、大会参加・書作展出品等を通じてその学識や技量を披露いただくことで、ぜひとも後学の徒の道標となっていたただきたく念願しております。「若手会員のための研究発表旅費補助」に関しては、早速多くの準会員(大学院生)から研究発表エントリーが相次ぎ、嬉しく思っています。理事会の決議により総会で決定したこれらの諸規程は、会員の皆様の活用によってこそ真に意味を持つものとなり、延いては斯界の発展につながります。

第六十八回大会は、武蔵野大学(西東京市)で開催されます。武蔵野大学・廣瀬裕之先生より会報第三十五号でご案内いただきました築地本願寺境内の武蔵野大学創立百周年記念碑「武蔵野女子学院発祥の地」を拝見しましたが、庵治石(香川県高松市産出)に廣瀬先生の温雅な書風が相俟った燦然と輝くマリンブルーの碑石に、武蔵野大会の盛況を祈らずにはいられませんでした。武蔵野大学と言えば、「石山切」を想起される会員も多いと思います。昭和四年、西本願寺による女子宗教大学(現武蔵野大学)設立運営資金に充てるため、第二十二代宗主・鏡如(大谷光瑞)が、実業家・茶人の益田鈍翁の助言により、同寺所蔵の粘葉装の冊子本「本願寺本三十六人家集」の中でもひとときわ美麗な「伊勢集」「貫之集下」を裁断、「石山切」と命名された両帖は、都合三百数十頁を三十二組に分け、一組約十枚二万円で売却したと伝えます。昭和四年は、「国宝保存法」(現「文化財保護法」の前身)が成立する年であり、同寺に残った「本願寺本三十六人家集」は六年に国宝に指定されました。古筆との縁も深い武蔵野大学において、大会記念講演では、日本書道史・古筆学の泰斗であられる古谷稔先生(東京国立博物館名誉館員)に講師をご依頼いたしました。本学会にとって満を持しての招聘であり、皆様にもおおいに楽しみにしていただければと思います。

昨年度の信州大会では、小林比出代先生の筆紙に尽くし難き熱情により、優美にして壮麗な信州手鑑「みすゞかる」が完成と相成りましたが、この流れを承けて武蔵野大会でも折帖を制作いたします。ここ数年来、出品点数は漸加傾向にあり、七十点に迫る勢いです。皆様のご協力の一つ一つが学界の発展に寄与するものとご理解いただき、お力添えを賜れますと幸いです。

武蔵野大会にお越しください

武蔵野大学（令和八年度開催大学） 廣 瀬 裕 之

全国大学書道学会・第六十八回大会を、東京都内の武蔵野の地で開催できますことを大変光栄に存じます。どうぞよろしくお申し込み申し上げます。

一 武蔵野大会の会場―武蔵野大学教育学部の所在地―

武蔵野大会の会場となる武蔵野大学教育学部は、本学の「武蔵野キャンパス」にあります。最寄駅はいくつかあるのですが、JR三鷹駅で下車して、北口バス③番乗り場から「武蔵境駅」行きのバスに乗り、「武蔵野大学」で降りるのが一番便利です。本キャンパスの正門前に到着します。（三鷹駅から普段の授業日には、「武蔵野大学」行きの直行バスが運行されています。しかし、残念ながら夏・秋休みなどの長期休業期間中は運休の可能性があります。）

二 武蔵野大学の歴史―武蔵野キャンパスと「西本願寺本三十六人集」

武蔵野大学（創立当時は、武蔵野女子学院といった）は、大正十三年に東京都中央区築地にある築地本願寺境内に関東大震災救護のために建てられた赤十字病院の救護所跡の建物を校舎として創立し、昭和四年に現在の武蔵野の地に移転しました。仮名の古典で有名な「西本願寺本三十六人集」のうちの二冊を分割して売却し、その費用で新しい校舎を建ててきたのが本学の「武蔵野キャンパス」です。この三十六人集の分割売却にあたってはいろいろな議論があつたようです。この事柄によって新しい国宝指定の制度ができたといえます。

まず、短大ができ、昭和四十年代に、本学文学部ができた頃の教授が有名な土岐善麿・亀井勝一郎などでした。書道では仮名の大家・森田竹華が特任教授として、教鞭をとられておられました。今回、竹華先生が、日展で大臣賞を受賞された作品や土岐先生の書を鑑賞していただくと考えています。また、現在の本学を紹介する「本学創立一〇〇周年記念碑」草稿、「武蔵野」をイメージした書と美術との合作等のコーナーも設け、書道学会会員書作展の折帖作品とともに展示したいと考えています。

三 書道学会会員書作展出品のお願い―折帖・半紙タテ置きサイズ―

本大会での書道学会会員書作展は、折帖とするため、出品作品サイズは、半紙のタテ置きサイズを最大寸法とします。このサイズ以内でしたら短冊のように幅を小さくしたり、形を正方形にしたり扇面形などにしても結構ですが、作品のヨコの寸法が半紙ヨコサイズよりも同寸か必ず小さくして頂きたい存じます。白い画仙紙ではなく、きれいな料紙やいろいろな色の染紙も大歓迎です。会期終了後、この折帖は、本学武蔵野キャンパスにある大学図書館にて貴重書として収蔵予定です。会員書作展への出品をお願いいたします。

本学は親鸞聖人を祖とする浄土真宗の宗門校で、雪頂講堂にパイプオルガンが設置されています。また本学は文学と能楽の研究が昔から盛んで、研究者だけではなく、芥川賞などの受賞作家やその選者の方々・有名な詩人・歌人・俳人などの先生方を教員としてお迎えしております。近年では、黒井千次・秋山駿・那珂太郎先生のように本学に教員としてお越しいただく間もなくして日本芸術院会員となられる方々が幾人も輩出され、研究室等でお会いしお話しできるだけでも光栄に存じました。

書の方では近藤富枝先生による、「三十六人集」の料紙を再現するような美しい「継ぎ紙制作」の教室や、かつて十二単・衣冠束帯を實際に学生が装着してみるような夢のような授業もありました。能楽の方では、雪頂講堂に仮設舞台があり、本学能楽資料センター主催の野村万作・山本東次郎など人間国宝による狂言講座が毎年開催されています。文学における著作権問題という、この件にとっても詳しい前文学部長の三田誠広先生がおられ、先生の在職中、ご教示いただきました。

四 書道三学会・伝統文化鑑賞会及び懇親会へのお願い

今回、本学にあるパイプオルガン・ピアノと、謡と小鼓の音色をお聞きいただきたく、短い時間ですが「伝統文化鑑賞会」を、書道学会終了後、雪頂講堂にご移動いただき、三学会合同懇親会のすぐ前に催す予定です。どうぞご参加頂きたくご案内申し上げます。

九月十二日、武蔵野大学（武蔵野キャンパス）にてお待ちしております。

全国大学書道学会 第68回 令和8年度(武蔵野)大会 開催要項 (第1次案内)

下記の要領で、全国大学書道学会 第68回 令和8年度(武蔵野)大会を開催します。
ふるってご参加、研究発表のご応募、会員書作展へのご出品をいただきたくご案内申し上げます。

- 1) 主 催 全国大学書道学会
- 2) 開催大学 武蔵野大学
- 3) 開催日 令和8(2026)年9月12日(土)
- 4) 大会会場 武蔵野大学 武蔵野キャンパス(〒202-8585 東京都西東京市新町一丁目1番20号)
- 5) 参加費 3,000円 * 研究発表者は無料
* 準会員(大学院生)は無料
* 会員の関係する大学の学生(学部生)の聴講も可
(聴講無料。但し、会員は、事務局宛に事前申請をすること)
- 6) 日 程 (予定* 発表件数により変動する場合があります。)
9:30 受付(1号館アーケード)
9:30~10:30 開会式・総会(1号館1階1102教室)
10:30~12:10 研究発表(1)
12:10~13:10 昼食
13:10~14:50 研究発表(2)
15:00~16:20 大会記念講演
16:30 閉会

7) 研究発表の募集

大会における研究発表を希望する会員(準会員を含む)は、下記を確認の上、発表要旨を期日までに郵送またはE-mail添付ファイルにて**事務局長宛**にお送りください。内容は未発表のものに限ります。なお、共同研究の場合、発表者以外の方が会員でない場合も発表は可能です。研究発表は、発表用レジュメ・パワーポイント等を利用して行っていただきます。発表用レジュメ(100部)は、9月4日(金)必着にて開催大学担当宛に送付願います。

①発表要旨

- ・要旨には、研究の意義・ねらい、方法、結論等を簡潔に記してください。
- ・体裁：word文書A4標準設定、縦置き縦書き、上下2段組。1段は、縦33字、横23行、10.5ポイント。書式はホームページ(<http://all-shodo.jp>)の「会員への情報」からもダウンロードできます。
- ・要旨は上段に記載し、最初の4行に、タイトル、所属機関名及び役職・発表者氏名(共同研究の場合は全員)を記し、本文は500字以上627字(19行)以内、全23行以内としてください。
- ・下段には、発表者氏名、郵便番号、住所、電話(FAX)番号、E-mailアドレスを付記してください。

②申込締切 **6月30日(火)必着**

- ③送付先 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学 芸術・スポーツ科学系
Tel&Fax 042-329-7258 e-mail ykusatsu@u-gakugei.ac.jp

全国大学書道学会 事務局長 草津 祐介 宛

8) 学会誌への投稿

- ・研究発表後に、学会誌へ投稿される場合には、連絡先を明記した別紙とともに、完成原稿(3部)を**2027年2月1日(月)必着にて学術局長宛**に送付してください。

【原稿送付先】〒247-8512 神奈川県鎌倉市大船6-1-3 鎌倉女子大学短期大学部

全国大学書道学会 学術局長 杉山 勇人 宛

※必ず書留またはレターパック等の配達記録便を利用し、原稿及び別紙の連絡先(氏名、郵便番号、住所、電話(FAX)番号、E-mailアドレス)を郵送してください。

- ・大会における研究発表を経ずに、学会誌へ「論文」「その他の原稿」を投稿する場合は、**2026年11月30日(月)必着にて学術局長宛**にそれぞれの原稿の要旨を送付してください。原稿の要旨は、本学会ホームページ上の「会員への情報」内にある「研究発表要旨」を使用してください。学術局内での審議、常任理事会での承認を経た上で、投稿の可否を連絡します。

【要旨送付先】全国大学書道学会 学術局長 杉山 勇人 宛(sgym-hyt@kamakura-u.ac.jp)

9) 会員書作展

会員作品展を以下の通り開催いたします。ふるってご出品ください。

詳細は、別紙または学会ホームページ掲載の出品要項をご覧ください。

- (1) 会 期 令和8年9月11日(金)～9月13日(日) 9:00～17:00(初日は10:00～)
- (2) 会 場 武蔵野大学 武蔵野キャンパス5号館1階クリエイティブ・ラーニングスクエア
(正門入ってすぐ右側の建物)
- (3) 協 賛 費 5,000円
- (4) 作品規格 「全国大学書道学会会員書作展出品要項」にてご確認ください。
- (5) 内 容 自由
- (6) 送付期日 **7月10日(金)必着厳守** ※協賛費を払込の上、作品、出品票を同封のこと
*なお、協賛費は郵便振替口座払い込みとなります。今回同封の払込取扱票(赤色)を使い、年会費と併せて払い込んでください。

- 10) 大会記念講演 講師 古谷 稔 先生(東京国立博物館名誉館員)
演題 「會津八一ならびに田邊古邨が切り拓いた漢字仮名交じり書」(仮題)

※書道三学会開催にあわせて、本学会大会終了後に以下の催しが行われます。

- ◆伝統芸能鑑賞会(パイプオルガン・ピアノ、小鼓・謡)
日時:9月12日(土)17:10～18:10
場所:武蔵野大学武蔵野キャンパス雪頂講堂(6号館1階)
会費:無 料
- ◆三学会合同懇親会
日時:9月12日(土)18:20～20:20
場所:武蔵野大学武蔵野キャンパス6号館地下食堂
会費:5,000円(仮)

11) 理事会【オンライン開催】

日時 9月6日(日) 19:00～20:30 ※役員、常任理事、理事の皆様には別途詳細を連絡いたします。

12) 大会会場への交通・宿泊・昼食について

- ◎武蔵野大学 武蔵野キャンパスへのアクセス
- JR中央線 吉祥寺駅 北口1番乗場よりバス15分「武蔵野大学」下車すぐ
三鷹駅 北口3番乗場よりバス10分「武蔵野大学」下車すぐ
武蔵境駅 北口3番乗場よりバス 7分「武蔵野大学」下車すぐ
- 京王井の頭線 吉祥寺駅 北口1番乗場よりバス15分「武蔵野大学」下車すぐ
- 西武新宿線 田無駅 徒歩15分
北口5番乗場よりバス5分「至誠学舎東京前」下車 徒歩5分
- 西武池袋線 ひばりヶ丘駅 南口1番乗場よりバス20分「至誠学舎東京前」下車 徒歩5分
- ◎宿泊について 宿泊先の紹介はしていません。早めにご手配ください。
- ◎昼食について 昼食は各自ご手配ください。

【お問い合わせ先】

- ・研究発表、学会に関するお問い合わせ
全国大学書道学会事務局(草津祐介/東京学芸大学/ykusatsu@u-gakugei.ac.jp/042-329-7258)
- ・大会に関するお問い合わせ
開催大学担当(廣瀬裕之/武蔵野大学/E-mail:h_hirose@musashino-u.ac.jp)

本学会と併せて、下記の学会が開催されます。(参加費は、それぞれ別扱いです)

日時、会場等の詳細は各学会から送付される開催要項をご参照ください。

- 日本教育大学協会全国書道教育部門 9月11日(金) 13:00～16:30
全国大学書写書道教育学会 9月13日(日) 9:30～16:30

役員一覧(令和八年度～九年度)及び新任役員あいさつ

臨時総会の結果、今期の役員一覧は以下の通りとなりました。新任の副理事長・常任理事・理事にご研究活動等、近況をお寄せいただきました。

参与 野中浩俊 (新潟大学名誉教授) 理事(地区担当)

竹之内裕章 (佐賀大学名誉教授)

〔北海道・東北〕

会長 横田恭三 (跡見学園女子大学名誉教授)

土井伸也 (北海道教育大学岩見沢校)

副会長 柿木原くみ (相模女子大学名誉教授)

〔関東〕香取潤哉 (跡見学園女子大学)

神野雄二 (熊本大学名誉教授)

〔関東〕権田瞬一 (二松学舎大学)

理事長 永由徳夫 (群馬大学)

〔関東〕徳泉さち (日本大学)

副理事長 小川博章 (淑徳大学)

〔中部〕角田勝久 (新潟大学)

杉山勇人 (鎌倉女子大学)

〔近畿〕萱のり子 (奈良教育大学)

〔中国・四国〕

谷口邦彦 (安田女子大学)

常任理事 草津祐介 (東京学芸大学)

〔中国・四国〕

城間圭太 (東京学芸大学)

森上洋光 (四国大学)

〔学術局〕○杉山勇人※兼任 (鎌倉女子大学)

〔中国・四国〕

井田明宏 (安田女子大学)

東 賢司 (愛媛大学)

〔編集局〕○草津祐介※兼任 (東京学芸大学)

〔九州〕瀬筒寛之 (鹿児島大学)

佐々木佑記 (五島美術館)

〔九州〕

〔企画局〕○小川博章※兼任 (淑徳大学)

監事 中村史朗 (滋賀大学)

関 俊史 (二松学舎大学)

山口恭子 (法政大学)

〔会計局〕○柳田さやか (島根大学)

○は局長 傍線は新任

理事(各局担当)

今期より「北海道」「東北」を「北海道・東北」に、「中国」「四国」を「中国・四国」に再編。

〔事務局〕藤森大雅 (大東文化大学)

〔事務局〕見城正訓 (静岡大学)

〔学術局〕松尾治 (専修大学)

〔編集局〕金 貴粉 (国立ハンセン病資料館)

〔企画局〕早川桂央 (相模女子大学)

〔会計局〕小林比出代 (信州大学)

ご挨拶

鎌倉女子大学短期大学部 杉山 勇人

本年度より副理事長および学術局長を拝命しました。鎌倉女子大学短期大学の杉山です。これまで本学会では事務局を担当してまいりました。会員の皆様には多大なるご協力とお力添えを賜りましたこと、改めて深くお礼申し上げます。今後も永由理事長、小川副理事長を補佐しつつ、微力ながら学会運営に尽力してまいります。

本学会は、日本教育大学協会書道教育部門、全国大学書写書道教育学会とともに「書道三学会」として大会・事業を運営しております。特に教育分野では、書写・書道を「文字文化」として枠組みを広く捉え直すようになりました。「書道に関する研究の充実と発展」を目的とする本学会におきましても、研究領域をより広く、より深く捉え直し、社会との連携をいっそう強めていくことが重要であると考えております。

近年、文字文化をめぐる環境は大きく変化しています。ここ数年で私自身も日々の仕事に生成AIが手放せなくなり、紙の書籍を読む機会も少なくなりました。広く古典から学び、創作へと昇華する書の制作過程は、人工知能の組み合わせ的創造性と親和性が高い領域であり、これから書は大きな変化を迫られるでしょう。現時点での生成された創作物は、まだ私たちが脅かす段階にはありませんが、やがて訪れるその時代に備えておく必要があります。手書き文字や毛筆の文化のために、「対立軸」と捉えるのではなく、積極的に抱え込み、「書くこと」の本質や書の芸術性を再構築することが求められています。それは、学会だからこそできる研究・開発の最前線であると思います。もちろん、引き続きこれまでの歴史と研究の蓄積に学ぶことも大切ですが、新たな価値観の提示やビジネスモデルの構築に挑むことも、私たち学会の責務であると感じております。

変革の時代をともに歩む皆様のお知恵とお力をお借りしながら、よりよい学会運営に努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

楷書・行書の淵源を求めて

安田女子大学 井田 明宏

この度、常任理事（学術局）を拝命いたしました、安田女子大学の井田でございます。本会の発展、円滑な運営のため、微力ながら尽力してまいります。ご指導のほど何卒よろしくお願いいたします。

さて、私は後漢時代の通行書体について調べております。きっかけは大学二年の春、台東区立書道博物館で目にした鎮墓瓶でした。「八分全盛の時代において、後世の行書のようなものが当時の人に書けたのだろうか」という疑問が浮かび、以来、後漢時代の肉筆資料を網羅的に収集し、楷書・行書の淵源を探るべく書法分析を継続しています。

近頃は後漢時代中期の書写とされる長沙五一広場東漢簡牘に注目しています。楷書や行書の雛型が文書に応じて使い分けられている様を見ると、現代の私たちの手書きの習慣とどこか似ているようで、漢代の人々に親近感を感じてしまいます。複雑な書体変遷を紐解く手がかりを得られるよう、引き続き調査を続けてまいります。

研究内容及び関心のある領域について

東京学芸大学 城間 圭太

本年度より常任理事（事務局）を拝命いたしました、城間でございます。ご指導ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

学生時代より、地元沖繩に伝わる中国の書跡に興味を持ち、研究を進めてまいりました。加えて、江戸時代の文人が中国書跡をいかに收藏し、その書法をどのように受容したのかについても関心を抱くようになり、現在も引き続き資料の収集を進めております。

その後、二〇一六年より中国へ留学し、中国美術学院修士課程、二〇一九

年からは浙江大学博士課程にて学ぶ機会を得ました。現地での学修を通じて「法帖」に関心を抱くようになり、銭泳という、多くの刻帖の刊行に関わった人物を中心に、清代の刻帖に関する研究を行っております。特に博士課程では演習形式の授業が多く、苦勞もいたしましたが、先生方や現地の学生による文献・画像資料等の収集およびその活用の方法を目の当たりにし、貴重な学びを得ることができました。

本年度の学会では、その成果の一部を発表させていただきたいと考えています。皆様にご批評を賜りますと幸甚に存じます。何卒よろしくお願い申し上げます。

中国文化史上で書がどう機能し、位置づけられかを思想的に考究する

二松学舎大学 関 俊史

本年度より企画局の常任理事を拝命致しました。至らぬ所多々あるかと存じますが、何卒御指導御鞭撻賜りますようお願いいたします。

私は中国書学・書道史、特に中国六朝から隋唐の書論を中心としています。書論とは、書に関して論じた文であり、その研究を通して、書がどのように確固たる位置を獲得し、文化史上で機能したかについて論じております。

具体的には、書の価値づけ、貴族の価値観と書論の形成、皇帝権力と書の関係性といった視点から拙文を発表して参りました。例えば、唐太宗の王羲之の評価は自身の政治的理想と関連したものであると論じました（『六朝學術學會報』二十三集）。また、庾肩吾「書品」は、当時の貴族の価値観に即して書の評価が定められていることを論じています（『書学書道史研究』二十八号）。

最近では、こうした問題意識から発して、書の内面性、思想形成はいかなる過程を経てなされてきたか、それを「心正則筆正」を例に唐以降の書論も射程にしつつ考えております（『大学書道研究』十七号）。最終的には書が現在に至るまでにどのような思想性を得てきたかを論じたいと思っています。

書道研究・教育の現場から

跡見学園女子大学 香 取 潤 哉

この度、理事を拝命し身の引き締まる思いです。僭越ながら、近況をご報告申し上げます。

現在の研究は、近代日本書道史および日中台の書道交流史を軸としつつ、近年は「書道と産学官連携」「書道科教育・教材研究」に注力しています。

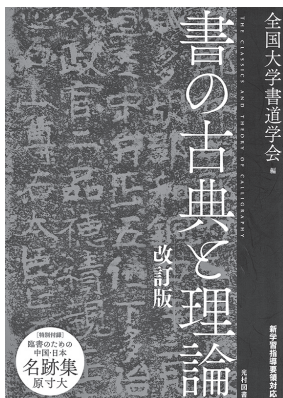
本学は昨年令和七年に創立一五〇周年を迎えた歴史ある女子大学です。前任の横田恭三先生が築かれた書道教育の伝統を受け継ぎ、発展させるべく現在様々なことに取り組んでおります。

なかでも力を入れているのが、産学官連携による地域との協働です。キャンパスのある文京区や埼玉県新座市をはじめ周辺自治体と連携し、書を通じて世代や国籍を超えた交流の場を創出するとともに、学生が主体的に関わりながら、書を通してものの見方や考え方を育む機会としていきたいと考えています。

前職の高校教員時代より取組んできた教材研究でも、教科や領域を越えた視点を取り入れた授業実践を続けています。

微力ながら、学会の発展に貢献できるよう努めてまいります。

『書の古典と理論 改訂版』好評発売中！



全国大学書道学会 編
定価：2200円
A4判、184頁、四色刷り
ISBN978-4-8138-0266-2

「古典編」「理論編」「資料編」の3編で構成された「書」の総合テキスト。オールカラーで、巻末に切り離し可能な原寸大の「臨書のための中国・日本名跡集」を添付。

若手会員が研究発表する際の旅費補助 及び大学院生、学部生の大会参加費について

昨年度の信州大会より、本学会では、若手会員（第2条 本規程における「若手会員」とは、大会開催年度に満30歳以下の者を指す。）が研究発表をする際の旅費を補助する制度を設けております。詳細及び申請に必要な書類は学会ホームページに掲載の通りです。学会ホームページ (<https://all-shodo.jp/member.html>) をご確認ください

また、昨年度より、研究発表者、準会員（大学院生）の大会参加費は無料としています。さらに、会員の関係する大学の学生（学部生）の聴講も無料としています。（ただし、事前に事務局に申請をする必要があります）

会員、準会員の皆様の積極的な発表、学会への参加をお待ちしております。

不明点は、事務局・草津 (ykusatsu@u-gakugei.ac.jp) までお問い合わせください。



新入会員募集

全国大学書道学会は、「書道に関する研究の充実と発展につとめ、会員相互の親睦をはかることを目的」(規約第3条)とし、第4条に定める、書道に関する研究発表や学会誌の発行、講演会や展覧会、その他研修旅行などを実施しています。

入会希望の方、入会希望者をご紹介いただける方は、本学会ホームページ(<https://all-shodo.jp>)をご参照いただき、ホームページ掲載の入会申込書を記入の上、お申込みください。入会申込書は、ホームページからダウンロードできます。(右QRコードから接続できます。)



QRコードをよみとると入会申込書のページに接続します。

全国大学書道学会規約(抜粋)

第2条

本会は、会員と準会員によって構成する。

会員は、国公立大学の書道を専門とする教員、及び本会の目的に賛同する者とする。

大学院生は、準会員とする。

なお、大学院在籍者、及び本会の目的に賛同して入会を希望する者は、会員の推薦を受け、常任理事会の承認を経なければならない。

第10条

会員の会費は、年額6,000円、準会員の会費は、年額5,000円とする。

ただし、会費未納の場合は、除名することがある。

前年度までに満64歳に達した会員のうち、前年度までに発生した会費(10年分以上)を完納した者は、3万円を一括納入した場合、以降の会費納入を免除する。

年会費納入のお願い

本学会の年会費について、同封の払込取扱票(赤色)により、7月8日(水)までに納入くださるよう、お願いいたします。

〈昨年度まで完納されている会員〉

* 年会費は、会員6,000円、準会員(大学院生)5,000円です。準会員は、大学院修了後、会員資格として取り扱います。(但し、大学院修了とともに退会を希望する場合は、必ず推薦者の了承のもと、事務局に退会を申し出てください。)

〈昨年度までに未納分がある会員〉

* 未納分のある方には、その旨を記載した「払込取扱票」を同封しておりますので、そちらで本年度分と合わせて納入ください。

〈次年度に長期会員優遇措置の適用を希望される会員〉

* 本年度64歳を迎え、かつ本年度までの会費(10年分以上)を完納された方は、**次年度**3万円一括納入により終身会員扱いとなり、その後の会費納入が免除されます。希望される場合は、「払込取扱票」の所定欄にご記入の上、会費を納入ください。

〈長期会員優遇措置が適用された会員〉

* 昨年度までにご申告いただき適用が認められた方には、「返信はがき」「払込取扱票」のいずれかまたは双方を同封しておりますので、そちらの記載に基づきご対応ください。申告済みにもかかわらずその記載がない方は、速やかに下記へお申し出ください。

■口座番号 00110-9-613810

■加入者名 全国大学書道学会

〈全国大学書道学会 会計局〉 〒690-8504 松江市西川津町1060

島根大学 教育学部 柳田さやか

TEL/FAX 0852-32-6277 E-mail yanagida@edu.shimane-u.ac.jp